

浮上の魚を熊 大へ調査依頼

水俣市大崎ヶ鼻で

二十八日午後二時ごろ水俣市大崎ヶ鼻で、弱って浮いているシマイツサキ十尾を遠足中の同市中鶴深川小（中村平蔵校長）の児童たちが見つけた。

シマイツサキは十五センチから二十センチほどの大きさで、腹を上に向けてクルクル回っていたという。

児童たちの届け出で、引率教師が全部を保管した。市教組を通じて熊大に調査を依頼する方針。

なお水俣市漁協の話では、同水域は新日本化学の廃液の流れるところで、毎年いまごろになるとイッサキが水俣川に産卵にやってくる。

て廃液にやられ、浮き上がるのだという。同漁協は「こうした被害については補償を受けているので問題はない」と言っている。